

目 次

- 1 . アーカイブサーバの貸出し利用について (再掲) 1
- 2 . 可視化アプリケーション講習会の開催について (再掲) 2

1. アーカイブサーバの貸出し利用について (再掲)

アーカイブサーバ (NR1000 F520 総容量10TB) は、大容量ファイル向けのネットワーク接続型ディスク装置です。スーパーコンピュータでの計算結果がディスクに大量にある場合、そのファイル課金への負担を大幅に軽減することを目的に、DVDサーバの後継システムとして導入されました。利用方法は、通常のUNIXファイルシステムと同じです。利用申請すれば、hpc 又は nucv にログインしたときに、アーカイブサーバのディレクトリも使用できるようになります。アーカイブサーバはユニット容量 952GB の構成が基本ですが、最大 1.7TB まで拡張することも可能です。1ファイルで基本構成容量を超える場合は事前にご相談ください。アーカイブサーバの利用申請は、センター4階事務受付(共同利用掛:052-789-4355)で行います。(申請書はセンターホームページで) 利用の概要は次のとおりです。

尚、これによりDVDサーバの貸出しサービスは終了します。

貸出しボリューム利用負担金

貸出しは1ボリューム単位とする。1ボリューム=ディスク50GBで換算し、1ボリュームにつき月額200円とする。

アーカイブサーバの利用負担金額は、アーカイブサーバ利用申請時および月初めに請求を行う。

アーカイブサーバ貸出しボリュームシステムの利用方法

アーカイブサーバ利用申請により、アーカイブサーバのディレクトリ配下に、以下のようなディレクトリが作成される。

(例) 登録番号 (login 名): a49999a マウントポイント: /ar/01/a49999a

hpc 又は nucv システムにログインし、UNIXファイルシステムと同様のアクセスが可能。

2. 可視化アプリケーション講習会の開催について (再掲)

可視化アプリケーション講習会を、下記のように開催します。受講の申込は、センター4 階事務受付 (052-789-4355) で行います。

場 所: 本センター 1 階端末室

対 象: 本センター利用有資格者および学部学生

定 員: 15 名

申込締切日: 各講習会開催日の 4 日前までです。
ただし、定員になり次第締切ります。

申 込 先: 本センター 4 階事務受付

電 話: 052-789-4355

メール: koshu@itc.nagoya-u.ac.jp

URL : <http://www2.itc.nagoya-u.ac.jp/cgi-bin/kousyu/csview2.cgi>

(電子メールで申し込む場合には所属、職名等の身分も明記してください。)

<各講習会内容と開催日時>

1) IDL 利用講習会

日時: 9月1日(木) 10時~17時

内容:

- ・ IDL 概要
- ・ IDL プログラミング環境
- ・ IDL によるデータの読み書き
- ・ IDL を使った代表的なデータ処理(プロット, イメージ, コンター, データ補間, 曲線近似, フィルタ処理, ウェブレット変換等)
- ・ 質疑応答

2) 可視化講習会

日時: 9月6日(火) 13時~17時

内容:

- ・ VisPlus の概要と機能説明
- ・ 可視化実習
- ・ コンテンツ作成 (2D 動画, 3次元動画等)
- ・ 本センターで利用できる可視化紹介 (立体視, 大画面を使った高解像度の可視化, バーチャルリアリティ, ウォークスルーアニメーション等)

3) AVS/Express と VisLink 利用講習会

日時：9月8日(木)13時～17時

9月9日(金)10時～16時

内容(1日目):

- ・ AVS/Express の概要と機能説明
- ・ AVS/Express の基本操作
- ・ AVS/Express の可視化実習(入門編)
- ・ 可視化相談

内容(2日目):

- ・ AVS/Express の可視化実習(中級編)
- ・ リアルタイム可視化システムについて
- ・ VisLink の概要と機能説明
- ・ VisLink の使用方法
- ・ VisLink のサンプルプログラムによる実習

<パッケージ口メモ>

1) AVS/Express

ビジュアル・プログラミングにより、独自のグラフィックスアプリケーションの開発および可視化を行うツールです。流体解析，構造解析，計算化学，医療画像などの幅広い分野で利用されています。可視化結果は、AVS/Express と本センター1階端末室に設置してある可視化システムを使って立体視，大画面を使った高解像度の可視化，複数のディスプレイを使った可視化，複数のCPUを使った大規模データの並列可視化，ウォークスルーアニメーション等を行うことができます。

2) IDL

計測・実験，数値計算，統計解析，シミュレーション，ビジュアライゼーションなどで使用されているソフトウェアで、データ解析，可視化，アプリケーション開発に利用されています。地球科学，宇宙科学の分野でよく利用されています。

3) VisLink

VisLink は、利用者の解析プログラムと AVS/Express とを連携させてリアルタイムに可視化を行うツールです。VisLink は、解析途中のプログラムの計算プロセスの把握や、早期エラーの発見，対処を目的としたもので、トラッキング機能とステアリング機能が利用できます。トラッキング機能を利用すると、解析途中のプログラムの状態を画像化して理解し、意図どおりに進んでいない場合には対話的に計算を終了することができます。また、ステアリング機能を利用すると、実行している解析プログラムに対して、対話的に解析条件等を変更して解析を制御することができます。

4) VisPlus

VisPlus は、AVS/Express を使いこなすために開発されたソフトウェアです。VisPlus は、AVS/Express 上で動作し、主に 3 次元時系列データや各種のシミュレーション計算データの可視化を目的としたシステムで、可視化するオリジナルデータを基に、入力データファイルの生成から、可視化処理、結果の保存（静止画，動画(2D/3D)）までを一貫してサポートします。VisPlus は、AVS/Express の可視化アプリケーション・ライブラリ（V ライブラリ）と、その入力データを作成する入力データ生成ライブラリから成ります。